

医療注射針用精密ステンレスチューブメーカーの手島精管は、国内だけではなく輸出を積極的に展開し、今や世界トップクラスのグローバル企業として成長している。それをけん引するのが二代目代表取締役社長の手島由紀子さんだ。男性の比率が高い製造業の中で、優れた経営手腕で世界と対等に渡り合う。

**家業を継ぐことを条件に
ポストンへ留学**

分福茶釜ゆかりの茂林寺で知られる群馬県館林市。そのほぼ中央に位置する館林駅から車で10分ほどの距離に、館林北部第三工業団地がある。田んぼに囲まれたのどかな風景の中、大手メーカーの工場が建ち並び、そこに手島精管の本社工場も肩を並べる。2013年に新設した工場で、完成の翌年、手島さんは二代目代表取締役社長に就任した。

「入社したのは02年、20歳のときです。私が経営に関わるようになったのはその7年後で、それまでは役職なしの一従業員でした」

そう苦笑する手島さんは、5人姉妹の長女でいずれは継ぐことになると思っていたものの、「私の同級生は、年代からして、銀行や

思い切った経営改革で 町工場から世界へ展開

手島精管

群馬県館林市

社名 手島精管株式会社
所在地 群馬県館林市下早川町306-1
電話 0276-73-1173
HP www.teshima.co.jp
代表者 手島由紀子 代表取締役社長
従業員 50人

IT業界に就職していたので、製造業に就職することにためらいがあり、継ぎたくない」と20代前半までは家業から目を背けていたという。短期大学の英文科を卒業後、3年間は東京の商社に勤め、そこで自分の英語が通用しないことを痛感すると、語学留学を決意する。だが、大反対したのが父の二三男さんだ。語学留学の条件に家業を継ぐことを持ち出され、渋々承諾

してアメリカのマサチューセッツ州・ポストンに飛んだ。

ポストンといえば、アメリカ最大の学園都市で、ハーバード大学やマサチューセッツ工科大学、バークリー音楽大学など名門大学が多いまちとして知られている。手島さんは、私立大学の名門、ノースイースタン大学の門をくぐった。「大学にはプロフェッショナルやキャリアアップを目指す向上心の

本社工場が完成し、2カ所に分散していた拠点を集約した。生産の効率化、作業環境の向上を図るとともに、環境配慮型の工場としても注目を集める

特集1

なるほど! コロが違う

「後継ぎ」女性社長の 繁盛経営

先代から事業を承継し、業績を上げ続けている女性の「後継ぎ」がいる。男性中心の職場といわれたものづくりの現場で、女性経営者が変えなかつたこと、大きく変えていったこととは何か? 「後継ぎ」女性社長の「味違う経営」に迫る。

